

令和3年7月9日

小野寺委員

先ほど来、いろいろな質疑を聞いていましたが、県の立場だと、無観客を前提にしていろいろなことを考えるのは難しいと思います。それは分かるのですが、どこか頭の片隅では、もしかしたら無観客になるかもしれないということは想定されていたと思うのです。無観客という事態も含めて、様々なことに備えていくことは大事なことはないかと、質疑を聞いていて思いました。

前回の委員会で、セーリングや自転車ロードレースの見方、見せ方、その辺りの質疑をさせていただいたのですが、その際に、どちらかという映像配信などといったもので楽しむということを前提にしていたので、その議論は全てむなしなものになったとは思わないのですが、とにかく開会式が目前に迫っているので、無観客ということが、国民の気持ち、あるいは我々のような開催地の気持ちが沈んでいくことは、やむを得ないのではないかと考えています。

一部のメディアでは、ますますオリンピックを目の敵にするような記事も目立つようになってきました。何か五輪憎しをあおるような論調の中でも、開催県として、少しでも種目を楽しんでもらう工夫は必要だと思っています。

先ほども議論の中に出てきましたが、そもそもほとんどの国民はテレビ観戦だと思うのです。ただ、それは一部の国民の関心が高い競技やいわゆる花形の競技であって、セーリングや自転車ロードレースでなどは、そういうところでは見られないと思います。

これは前回も質疑しましたが、例えば、gorin.jpは映像が流れているだけで、特に説明などはないわけです。gorin.jpという素材を我々は加工できませんが、それがあつ前提で、ツイッターなどSNSを使って、見る人たちを楽しませることは、基本的に組織委員会が行うことなのか、それとも県が行うことなのでしょう。

競技調整担当課長

今、委員のおっしゃっていた、そういった映像に対してツイートするといったことに関しては、組織委員会は行わないと聞いていますので、県としては、できるだけ県民の皆様楽しんでいただけるように、同時にツイートするなどにより協議の進行が分かるような工夫をしていきたいと考えています。

小野寺委員

前回質疑したときから、その辺りについては大きく変化したわけではないと思うのですが、先ほども申し上げたように、何か少しでも盛り上げていかなくてはいけないということがありますし、ニコニコ動画みたいに画面にかぶせていくわけにはいきませんから、その辺りはリアルタイムで競技の理解の助けになるようなことを、前回の質疑のとき以上に積極的に取り組み、さらなる工夫をしっかりとお願いしたいと思います。

細かな話になるのですが、オリンピックに関してのグッズの販売は会場では予定されていたということでもよろしいでしょうか。

オリンピック・パラリンピック課長

会場で販売コーナーは設置されると聞いていました。

小野寺委員

そのようなものはどうなるのでしょうか。例えば、これは組織委員会の仕事だと思いますが、今回、神奈川県のを会場を提供しているわけですから、代替的な販売の仕組みのようなものは聞いていらっしゃいますか。

オリンピック・パラリンピック課長

特にそういった代替措置が取られるというお話は聞いていません。

小野寺委員

無観客になったことで、観客の整理の必要性はあまりなくなり、そこまで人が割かれることはなくなったと思います。これはオリンピックの費用負担についても絡むと思うのですが、例えば、県が県の負担で、会場周辺の観客の整理などに関して、事業者等と契約をしているということはあるのですか。

オリンピック・パラリンピック課長

県が直接、群衆の整理などに係る警備員等の委託等を実施することや、費用を一部負担するような事案はありません。

小野寺委員

もしそういうことがあれば、契約解除などに伴う様々な事務が生じてくると思ったのですが、県は関わっていないということが分かりました。

大会が目前に迫っているわけですが、県庁職員の皆様の人員、マンパワーに関しては、無観客になったことで、大分配分などが変わってくるということはあるのですか。

スポーツ局副局長兼総務室長

無観客になったことに伴うスポーツ局のオリンピック・パラリンピックに従事する職員について、観客を入れることによるいろいろな事務は、基本的には大会運営に関わる場所ですから、組織委員会がメインとなっています。もちろん、神奈川県も全く無関係というわけではありませんが、無観客になったことに伴って、職員の作業量、事務量が大幅に減るといったことは今のところ見込んでいません。

むしろ、今、委員から御指摘があったとおり、無観客になったことに伴って、これから我々がオリンピック・パラリンピックをより県民の皆様に御理解いただき、テレビを見て応援していただくということを積極的に、力をプラスで注いでいかなければいけないのではないかと考えています。

小野寺委員

まさに、今御答弁をいただいた方向で、しっかりと取り組んでいただきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。